2023年
環境経営レポート

（ 2023年1月1日～2023年12月31日 ）

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

®環境省

エコアクション21

認証番号　0000530

2024年8月20日発行

旭産業株式会社

〒530－0047

大阪市北区西天満4丁目3番18号

目　　次

１．組織の概要

２．認証・登録の範囲
　２－１．　登録組織名
　２－２．　活動
　２－３．　環境経営レポートの対象期間及び発行日

３．環境経営方針・組織図

４．環境経営目標と実績
　４－１．　2023 年の環境経営目標及び環境経営計画と実績
　４－２．　環境経営目標の過去の実績
　４－３．　2024 年を含む中長期の環境経営目標

５．環境関連法規への違反、訴訟等の有無
　５－１．　当社に適用となる主な環境関連法規等
　５－２．　環境関連法規制の遵守状況

６．代表者による全体評価と見直し・指示
　６－１．　環境経営方針について
　６－２．　環境経営目標について
　６－３．　実施体制及びその他の指示

2018 年 11 月

豊中工場の屋上に設置した

自家消費型

太陽光発電設備

１．組織の概要

（１）事業所名及び代表者氏名
旭産業株式会社
代表取締役社長　堀田修二

（２）所在地
本社　　〒530-0047　大阪市北区西天満４丁目３番18号
名古屋営業所　〒461-0004　名古屋市東区葵３丁目23番３号
広島営業所　〒733-0012　広島市西区中広町３丁目３番26号
豊中工場　〒561-0835　豊中市庄本町４丁目５番12号

（３）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者　常務取締役　堀田哲二
担当者連絡先　豊中工場内　環境対策チーム
TEL　06-6332-5551
FAX　06-6332-5552

（４）事業活動の内容
温度センサ（熱電対、測温抵抗体など）の製造・販売及び計測・制御機器関連の販売

（５）事業の規模

年　度	売　上	社員数
２０２１年 (1月～12月)	２，６７７，２１６千円	７２名
２０２２年 (1月～12月)	２，７３４，１５６千円	７２名
２０２３年 (1月～12月)	２，４４５，７３９千円	７２名

２．認証・登録の範囲

２－１．登録組織名
旭産業株式会社　本社、名古屋営業所、広島営業所、豊中工場

２－２．活動
温度センサの製造・販売及び計測・制御機器関連の販売

２－３．環境経営レポートの対象期間及び発行日
（１）対象期間　２０２３年１月１日～２０２３年１２月３１日
（２）発行日　２０２４年８月２０日

環　境　経　営　方　針

＜環境経営方針＞

我々は、世の中の様々な恩恵を受けると共に、それと同等の社会的そして商業的制約条件のもと存在しています。我々がどうすれば今日、そして未来へと存在し続けることができるか、その答えは経営理念である「健全経営」を維持継続することに他なりません。

そして、我々は「地球環境の危機」への視点を加える必要があるということも認識しています。つまり、悪化の一途をたどる地球環境に目を向け、そして行動する「環境経営」を維持継続することが、我々にとって、極めて重要であると考えているのです。

そこで、以下に環境経営方針を掲げ、全社員が事業活動に伴う環境負荷を低減するとともに、環境保全に貢献することを誓います。

１．環境に負荷を与えるようなものを、可能な限り、当社に入れない。

２．環境に負荷を与えるようなものを、可能な限り、当社で生まない。

３．環境に負荷を与えるようなものを、可能な限り、当社から出さない。

４．当社に適用される環境に関する法律を遵守する。

尚、重点的に取り組むテーマとして、以下の副次的環境経営方針を定めます。

＜副次的環境経営方針＞

１．資源やエネルギーを大切にするため、
グリーン購入を心がけ、進んで節水や省エネ活動に取り組みましょう。

２．地球の温暖化を防止するため、
省エネ活動を通じて、温暖化効果ガス排出量を削減しましょう。

３．廃棄物を減らし、資源を循環させるため、
リユース、リデュース、そしてリサイクルを実践しましょう。

４．自然や生物に有害な影響を与えないよう
生産活動で発生する有害な化学物質の量を把握しましょう。

５．生産・販売活動のロスを減らすことで、環境負荷の低減に貢献しましょう。

６．環境関連法規や当社が約束したことを、しっかり守りましょう。

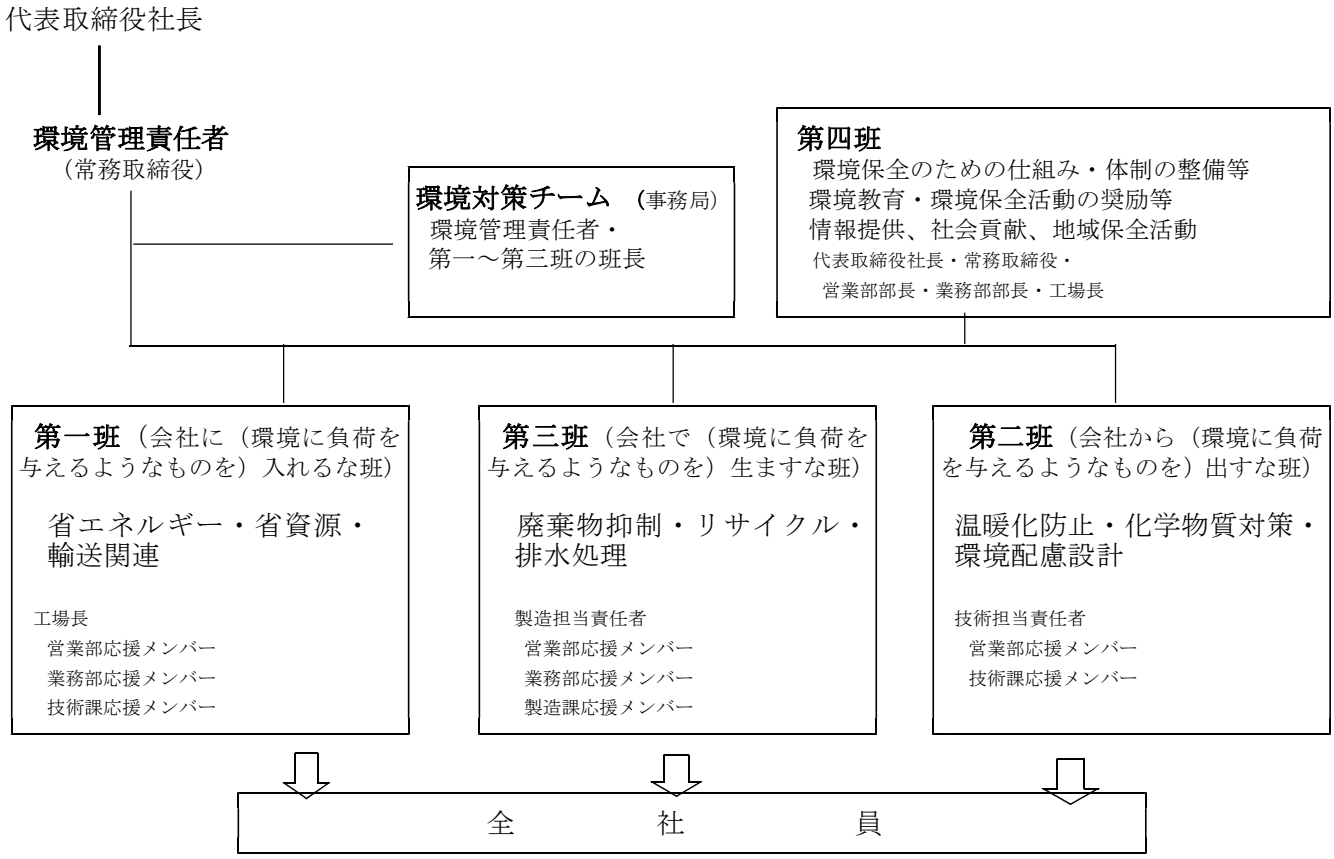
これら方針を全社員に周知させます。更に、これらを実現するための具体的な環境経営目標も設定し、全社員で目標達成に向けて継続的改善に取り組みます。

制定日　２００５年　４月２３日
改定日　２０２４年　１月　５日

代表取締役社長　　堀田修二

組織図

環境班とは、全部署にまたがる EA21 活動メンバーであり、環境対策チーム員が班長を兼務します。



代表者 （代表取締役社長）	環境管理責任者を任命し、責任と権限を与える。 EMS の構築・運用・維持に必要な経営資源を準備する。 「環境経営方針」を設定し、「環境経営目標」を承認する。
環境管理責任者 （常務取締役）	EMS に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、常に EMS を維持管理する。 EMS の構築と運営を円滑に行い、代表者による見直しのための情報を代表者に提供する。 環境対策チームが設定した「環境経営目標」を確認する。
環境対策チーム （環境管理責任者・第一～第三班の班長）	班毎の目的を PDCA で管理する。 応援メンバーに対し、そしてその他の全社員に対しても EMS の重要性を伝授する。 「環境経営目標」を設定し、「環境経営目標設定書」・「エコアクションプログラム」を策定する。
応援メンバー	各班の目的に必要なデータ収集や簡単な事務をする。 日常活動における環境保全活動への全社的取組推進に対するサポートをする。
全社員	EMS の為に何をやらなければならないかを自覚（認識）し、行動する。

４．環境経営目標と実績

４－１．2023 年の環境経営目標及び環境経営計画と実績

取組の評価：「環境経営目標取り組みチェックシート」の集計に基づく全社員の参画度合で評価

◎…９６％以上　　○…８６～９５％　　●…７６～８５％

△…６６～７５％　　▲…５１～６５％　　×…５０％以下

（1）燃費の向上（ガソリン使用量の削減）　（km/L）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
基準年度である 2019 年の実績 14.1km/L に対して 0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ向上の 14.5km/L 以上	① 駐・停車時のエンジンの停止 ･･･【評価◎】 ② 経済速度での走行･･･【評価○】 ③ 効率のよいルート外勤他 ･･･【評価○】 **【環境への取組の総合評価　…○】**	**目標達成** 基準年度比　1.1ﾎﾟｲﾝﾄ向上の **15.2km/L** 2023 年度は走行距離を大きく伸ばし単月でも、大きく目標をクリアーする月もあり、営業部員によるエコドライブ推進により 15.2 ㎞/L という成果が出た。当社では EV や HV への車種変更の予定は現状なく、2024 年以降も、営業部員の積極的なエコドライブ活動の推進で、燃費目標は 14.5km/L 以上を維持する。

（2） 節水の実践（m^3）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
基準年度である 2019 年の実績 639m^3 に対して 4.5%以上削減の **610m^3以下**	① 口をこまめに閉め、取水を抑制する ･･･【評価○】 ②水道メーターを定期的に監視する ･･･【評価◎】 **【環境への取組の総合評価　…◎】**	**目標達成** 基準年度比　17.5%削減の **527m^3** 要因としては、年間通して雨の日が多く、特に 10 月～12 月は雨が多かったため庭木への散水をほぼストップするなど散水量を抑制したが､校正に使用する水やエアコンフィルター洗浄等による生活用水が増えたため、2022 年度比で 5.4%悪化したものの目標は、達成できた。 2024 年度も①雨天時の散水停止を徹底すること②土の乾き具合に応じて散水の ON/OFF を細かく調整することにより、天気にも左右されるとは思うが、目標は 610 ㎥以下を維持する。

（3）電気使用量（＝購入電力量）の削減　（ｋＷｈ）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
基準年度である 2019 年の実績 162,858kWｈ に対して±0%の **162,858kWh 以下**	①業務遂行上の不要な電灯の消灯 ･･･【評価○】 ②室内温度を夏は 28℃±1℃、冬は 20℃±1℃で維持する ･･･【評価○】 ③設備の定期メンテナンスを行い電力量過負荷を予防する ･･･【評価●】 **【環境への取組の総合評価　…○】**	**目標未達** 基準年度比　9.1%増加の **177,664kWh** 2023 年度は目標に対して､14,806kWh の大幅な増加で、未達。要因としては、標準室の精密計測器の結露対策として冬場(1-3 月)の夜間にもエアコンを稼働した事による電気使用量の増加によるものと考える。本社は新ビル移転後順調であり昨年度比 7.5%低減したが、名古屋は 4.4%、広島は 12.7%、工場は 11.5%増加して終わったためトータルの電気使用量としては目標以内に抑えることができなかった。 2024 年度の取組として、業況の改善は見通しにくいが、全社的な節電活動を継続し、生産活動もより効率的に行うことで、目標は 162,858kWh 以下を維持する。

（4）二酸化炭素排出量の削減（kg-CO_2）

2023年の計画	2023年の環境への取組とその評価	2023年の実績とその評価
基準年度である2019年の実績126,020.7 kg-CO_2に対して20.6%削減の**100,000 kg-CO_2以下**	取組内容１）の燃費の向上 取組内容３）の電気使用量の削減 CO_2排出係数は、0.334kg-CO_2 (関西電力　2018年調整後排出係数)	**目標達成** 基準年度比　24.7%削減の **94,848.6 kg-CO_2** 要因としては、電気使用量由来については、本社は新ビル移転後順調にCO2排出量が7.5%低減したが、名古屋、広島、工場は電気使用量の増加で、CO2の排出量は昨年度比で、各々4.4%、12.7%、11.5%増加し、トータルのCO2排出量は、2022年度より3,347.0kg-CO2増加した。尚、ガソリン使用量由来については、2022年度より、CO2排出量は6.8%(2,587.9kg-CO2)削減したため､結果として全体では、2022年度より、772.8kg-CO2(LPG増加分13.7kg-CO2を含む)増加はしたものの、目標は、達成した。 2024年も環境経営目標1及び3の取組結果によるが、直近過去3年間実績等(2021年99323.kg-CO2、2022年94075.8kg-CO2、2023年94848.6kg-CO2)を考慮し、梅雨や猛暑の天候による不安材料もあるが、目標は94,000kg-CO2以下に引き下げたい。

（5）　コピー用紙購入量の削減　（枚）

2023年の計画	2023年の環境への取組とその評価	2023年の実績とその評価
基準年度である2019年の実績222,000枚に対して0.9%以上削減の**220,000枚 以下**	①複数枚の出力は両面印刷する ･･･【評価○】 ②　複数枚のコピーは両面コピーする ･･･【評価●】 ③個人持ちを無くすための資料共有化、電子ファイル化の実施･･･【評価○】 ④裏紙を再利用する　･･･【評価○】 ⑤社内文書の回覧化で配付削減 ･･･【評価○】 **【環境への取組の総合評価　…○】**	**目標未達** 基準年度比　12.8%増加の **250,500枚** 要因としては、本社での見積作成時に使用していた定型印刷用紙を廃止し、A4コピー用紙へと変更したことによる大幅な使用量増加の影響と思われる。 2024年の取組として、景気動向など予想しにくいが、両面印刷、裏紙の利用など日々の活動に加え工場のデジタル化推進などで、コピー用紙削減活動を若干でも前向きにすすめることで、2023年度の実績よりは3,000枚程度出来ると見込んで、目標は、247,500枚以下を目指す。

（6）　一般廃棄物の削減（ kg ）

2023年の計画	2023年の環境への取組とその評価	2023年の実績とその評価
基準年度である2019年の実績884.7ｋｇに対して9.6%以上削減の**800 kg以下** (本社、名古屋を含む)	①ゴミを捨てる前に再資源化や再利用の可能性を考える　･･･【評価○】 ②使用済み封筒や袋等を再利用する ･･･【評価○】 **【環境への取組の総合評価　…○】**	**目標達成** 基準年度比　46.5%削減の **473.6 kg** 要因としては、昨年まで一般廃棄していたビニール袋などプラスチックゴミを産業廃棄物として処理したことによる削減が大きい。 2024年の取組としては、プラスチックゴミを産業廃棄物にしたことを考慮しつつ、景気動向、業状など予想しにくい面もあるが、日々の削減活動を進めることで、2024年度以降の目標を、450kg以下に引き下げたい。

（7） 産業廃棄物の削減（ｋｇ）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
基準年度である 2019 年の実績 1,252.1ｋｇに対して 4.2%以上削減の **1,200 ㎏以下**	①顧客に廃棄物引き取り削減の働きかけを行う ･･･【評価○】 ②顧客の納品ケースの通い箱化推進 ･･･【評価○】 ③供給者の納品ケースの通い箱化推進 ･･･【評価○】 ④梱包材の再利用に努める･【評価○】 ⑤調合の工夫でエポキシ樹脂廃棄分削減 ･･･【評価○】 ⑥切断長を工夫し、結束材等の廃棄量削減に努める ･･･【評価○】 **【環境への取組の総合評価 …○】**	**目標未達** 基準年度比 15.3%増加の **1444.2 ㎏** 要因としては、2022 年度まで一般廃棄物として廃棄処理していたビニール袋などプラスチックゴミが産業廃棄物として処理した事による増加である。2024 年の取組としては、一般廃棄物として廃棄処理していたビニール袋などプラスチック類の増加分を考慮しつつ、産業廃棄物の削減活動を前向きに進めることにより目標は、1,400 ㎏以下と 2023 年度目標値より引き上げざるを得ない。

（8）化学物質の適正管理（ｋｇ）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
過去 3 年の実績から目安として年 **150 ㎏以下**とする （但し、基準年は、2019 年とし、基準値は 230kg とする）	① 3ヶ月毎の定期監視を実施 (3ヵ月間の使用量の適正を評価)	**目安達成** **実績 136.2 ㎏** 要因としては、洗浄機の稼働自体が多くなく、担当者が、開閉時間を少なくし、槽外への液漏れ等も注意し洗浄液の液層の容量管理も出来ているため、結果として、化学物質使用量の大部分を占める洗浄液の使用量を 123.8kg(5 缶）に抑えられたこと大きい。その他の PRTR 対象物質は、少量であり、影響はなかった。2024 年の取組として、景気の回復が不透明な中、生産活動にも左右されるが、過去の実績（2022 年 143.5kg、2023 年 136.2kg）を考慮して 140kg 以下を目指す。

（9）包装梱包材の適正管理（ｋｇ）

2023 年の計画	2023 年の環境への取組とその評価	2023 年の実績とその評価
過去 3 年の実績から目安として **6,500 ㎏以下**とする （但し、基準年は、2019 年とし、基準値は 7,045.6kg とする）	① 3ヶ月毎の定期監視を実施 (3ヵ月間の使用量の適正を評価)	**目安未達** **実績 10,534.9 ㎏** 要因としては、2022 年よりカートンケースが約 2,137kg,増加、緩衝材も約 142kg 増加した。発送件数の増加や過剰な梱包形態が影響していると思われる。発送件数の増加により、2022 年度実績 8,192.1kg、2023 年度実績 10,534.9kg と、2021 年度以前の 6000～7000kg のレベルから増大しているため、目安値を改悪せざるを得ない。2024 年の取組としては、目安値を 10,000kg 以下として過剰な包装梱包にならないよう、包装梱包の適正化の活動を進め、日々の活動を積み重ねることによって、使用量が、管理内に収まるように努める。

＊ グリーン購入の評価について

グリーン購入については､活動を継続しており､2023 年度は､基準年度 2004 年の実績 16%に対して、42.3ﾎﾟｲﾝﾄ向上の 58.3%となった。

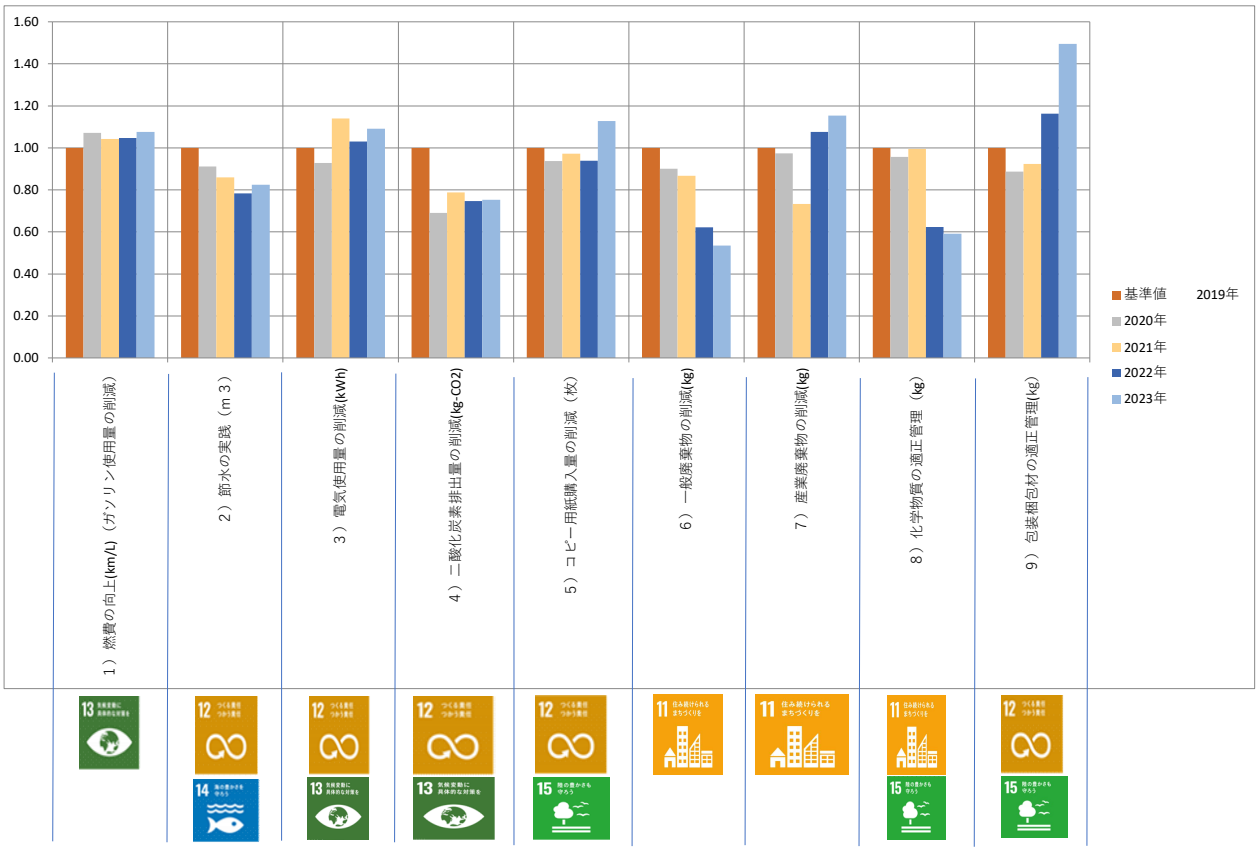
4-2 環境経営目標の過去の実績
1. 環境経営目標の実績の推移

	基準年	基準値2019年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1）燃費の向上(km/L)（ガソリン使用量の削減）	2019年	14.1	14.1	15.1	14.7	14.8	15.2
2）節水の実践（m^3）	2019年	639	639	583	549	500	527
3）電気使用量の削減(kWh)	2019年	162858	162858	151098	185795	167643	177,664
4）二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	2019年	126020.7	126020.7	87000.8	99323.6	94075.8	94848.6
5）コピー用紙購入量の削減（枚）	2019年	222000	222000	208000	216000	208500	250,500
6）一般廃棄物の削減(kg)	2019年	884.7	884.7	797.1	767.1	550.8	473.6
7）産業廃棄物の削減(kg)	2019年	1252.1	1252.1	1220.2	917.0	1346.7	1444.2
8）化学物質の適正管理（kg）	2019年	230.0	230.0	219.9	228.8	143.5	136.2
9）包装梱包材の適正管理(kg)	2019年	7045.6	7045.6	6245.2	6510.3	8192.1	10534.9

2. 各環境目標の基準年＝1.00

	基準年	基準値2019年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1）燃費の向上(km/L)（ガソリン使用量の削減）	2019年	1.00	1.00	1.07	1.04	1.05	1.08
2）節水の実践（m^3）	2019年	1.00	1.00	0.91	0.86	0.78	0.82
3）電気使用量の削減(kWh)	2019年	1.00	1.00	0.93	1.14	1.03	1.09
4）二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	2013年	1.00	1.00	0.69	0.79	0.75	0.75
5）コピー用紙購入量の削減（枚）	2019年	1.00	1.00	0.94	0.97	0.94	1.13
6）一般廃棄物の削減(kg)	2019年	1.00	1.00	0.90	0.87	0.62	0.54
7）産業廃棄物の削減(kg)	2019年	1.00	1.00	0.97	0.73	1.08	1.15
8）化学物質の適正管理（kg）	2019年	1.00	1.00	0.96	0.99	0.62	0.59
9）包装梱包材の適正管理(kg)	2019年	1.00	1.00	0.89	0.92	1.16	1.50

注：環境目標１）は上昇が望ましく、その他は下降が望ましい



４－３．2024 年を含む中長期の環境経営目標

	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
（１）燃費の向上（km/L） 基準年度 2019 年…14.1 km/L	△0.4 ポイント 14.5km/Ｌ以上	△0.5 ポイント 14.6km/Ｌ以上	△0.6 ポイント 14.7km/Ｌ以上	△0.7 ポイント 14.8km/Ｌ以上	△0.8 ポイント 14.9km/Ｌ以上
（２）節水の実践（m^3） 基準年度 2019 年　…639m^3	▲4.5% 610m^3以下	▲4.7% 609m^3以下	▲4.9% 608m^3以下	▲5.0% 607m^3以下	▲5.2% 606m^3以下
（３）電気使用量の削減（ｋＷｈ） （＝購入電力量） 基準年度 2019 年 …162,858ｋＷｈ （＊1　85,012kg- CO_2）	±0% 162,858ｋＷｈ 以下 （54,395 kg- CO_2）	▲0.5% 162,044ｋＷｈ 以下 （54,123 kg- CO_2）	▲1% 161,229ｋＷｈ 以下 （53,850 kg- CO_2）	▲1.5% 160,415ｋＷｈ 以下 （53,579 kg- CO_2）	▲2% 159,601ｋＷｈ 以下 （53,307 kg- CO_2）
(4) 二酸化炭素排出量の削減 （kg-CO_2） 基準年度 2019 年 …126,020.7 kg-CO_2	▲25.4% 94,000 kg-CO_2以下	▲25.9% 93,381 kg-CO_2以下	▲26.4% 92,751 kg-CO_2以下	▲26.9% 92,121 kg-CO_2以下	▲27.4% 91,491 kg-CO_2以下
（５）コピー用紙購入量の削減（枚） 基準年度 2019 年 …222,000 枚	△11.5% 247,500 枚以下	△11.3% 247,000 枚以下	△11.0% 246,500 枚以下	△10.8% 246,000 枚以下	△10.6% 245,500 枚以下
（６）一般廃棄物の削減（ｋｇ） 基準年度 2019 年 …884.7ｋｇ	▲49.1% 450kg 以下	▲49.1% 450kg 以下	▲49.1% 450kg 以下	▲49.1% 450kg 以下	▲49.1% 450kg 以下
（７）産業廃棄物の削減（ｋｇ） 基準年度 2019 年 …1,252.1ｋｇ	△11.8% 1,400kg 以下	△11.8% 1,400kg 以下	△11.8% 1,400kg 以下	△11.8% 1,400kg 以下	△11.8% 1,400kg 以下
（８）化学物質の適正管理	目安として 140 ㎏以下	目安として 140 ㎏以下	目安として 140 ㎏以下	目安として 140 ㎏以下	目安として 140 ㎏以下
（９）包装梱包材の適正管理	目安として 10,000 ㎏ 以下	目安として 10,000 ㎏ 以下	目安として 10,000 ㎏ 以下	目安として 10,000 ㎏ 以下	目安として 10,000 ㎏ 以下

△・・・プラス　　▲・・・マイナス

＊1　CO_2 排出係数は、2019 年度(基準年度) が 0.522(関西電力 2013 年基礎排出係数)、2020 年度以降は 0.334 (関西電力 2018 年調整後排出係数) を採用

次年度の取組内容として、

2024 年度も、『電気、水、ゴミ』を中心の環境負荷低減活動となりますが、環境経営目標において 3 年連続未達成となった。①電気使用量（＝購入電力量）の削減と②包装梱包材の適正管理の活動に特に配慮して取り組みたい。又、環境対策チームに若手も参加させ、実施体制の強化を進めたい。

５．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

５－１．当社に適用となる主な環境関連法規等

法規制等の名称	該当する活動	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物・産業廃棄物処理業の許可を有する業者への委託 産業廃棄物処理はマニフェストの発行を伴う 産業廃棄物管理票交付等状況報告義務	遵守
大阪府生活環境の保全に関する条例（騒音、振動の規制基準の遵守義務）	規制基準の遵守	遵守
フロン排出抑制法	対象機器の簡易点検及び定期点検	遵守

５－２．環境関連法規制の遵守状況

環境関連法規への違反はありません。又、関係当局よりの違反･訴訟等の指摘は過去 18 年間有りませんでした。

６．代表者による全体評価と見直し・指示

６－１．**環境経営方針**について

環境管理責任者より、環境に負荷を与えるようなものを「会社に入れない」、「会社で生まない」、「会社から出さない」の３つと、「法律遵守」を掲げた環境方針は、継続すべき内容である、との報告を受けて、

代表者の指示：

環境方針は、現状、何ら、問題なくこのまま継続する。

６－２．**環境経営目標**について

環境対策チームの各班からの報告と環境管理責任者からの評価及び報告を受けて、

代表者の指示：

（環境経営目標及び計画）

「電気使用量（購入電力量）の削減」と「包装梱包材の適正管理」の目標が 3 年連続未達で終わった。更に「ｺﾋﾟｰ用紙購入量削減」と「産業廃棄物の削減」までが目標未達となり、残念な 1 年となった。それぞれ、次年度に向けて問題意識をもつ必要がある。

電気使用量については

原因が明確であり、対処を期待する。又、節電効果のあるアイデアも提案して欲しい。

包装梱包については、過剰梱包などにならないようにアイデアを出し合って、紙やプラスチック資源の使用低減に努力して欲しい。

ｺﾋﾟｰ用紙と産業廃棄物については特有の事由と判断する。

環境目標 4）～9）について

実績と傾向、そして前向きな取り組み方も含めて、変更することは認める。

但し、改善の道を探るよう期待したい。

６－３．**実施体制**及びその他の指示

EMS の運営については

上手く運営できていると思うが、今後のことも考え、

全班とも若手と共に活動し、業務伝承していくことを強く求める。

環境負荷低減は全社員の姿勢が大事なことは当然であるが

会社として、適切な設備投資も必要であると考える。

但し、環境負荷の低減に注力しすぎてｺｽﾄｱｯﾌﾟが発生することは

企業経営上問題であるので、費用対効果の考えの下、環境に配慮した事業活動を実現するという姿勢を持ち続けて欲しい。

最後に地球規模で考えると、近年の温暖化や気象異常が気になる。

マイクロプラスチックによる海洋汚染や廃棄物の増加による埋立地不足や土壌や河川の汚染、その他気がかりなことが多すぎる。

当社で貢献できることは微々たるものであるが、環境経営目標に活動を落とし込んだり、各自の環境意識を向上させることは

できる。現体制はこれらを実現可能にする状態にあるが、
更に良い体制を構築するという気持ちで取り組んでほしい。

以　上